

日本住宅技術研究会 会長挨拶：玉水新吾

皆様こんにちは。

この度、「日本住宅技術研究会」を立ち上げ、会長に就任致しました玉水新吾と申します。私は、戸建て住宅メーカーで、施工に関する技術屋一筋に35年間、勤務してまいりました。その間、随分といろいろな体験をさせていただきました。成功体験も失敗体験もいたしました。その間に、本やDVDも出版することができました。

今回、「日本住宅技術研究会」という、住宅にこだわった技術屋集団をつくりました。メンバーは、住宅を生業とするプロの技術屋で、それぞれが技術的強みを持っております。

設立主旨ですが、

- ①メンバー相互間で技術研鑽・情報交換を行います。
- ②建築主に対して適切なアドバイスができる会を目指しています。

私には仕事を通じて常々、疑問に思っていたことがあります。

それは、日本の住宅が平均30年で解体撤去されているという現実であります。アメリカでは100年です。同じ木質系の住宅で

、何故3倍以上も違うのだらうかと思えます。

物理的な、構造寿命には差がありませんが、日本では社会的寿命として、住まい方に合わなくなった、陳腐化したなどの理由

をつけて解体・建て直しされています。

住宅建設という大事業にもかかわらず、建築主は、とりあえず建築で、検討期間も短く、設計期間も短く、施工期間も短く、

効率優先で考えます。施工者側も経済的論理で、経費を節約します。

30年住宅をこれまでのように、スクラップ&ビルド形式で建てかえ続ければ、どうなるのでしょうか？我々は常に住宅ローン

の残っている住宅に住むことになります。この意味するところは、我々サラリーマンが永久に豊かさを実感することができな

いということでもあります。

住まいをつくる目的は、「家族の幸せ」を実現することです。

住宅会社はこのやり方で、確かに恩恵を受けてきました。しかし、これは建築主の幸せにはつながらないと、私は思います。

本来、2倍の60年、あるいは100年住宅をストックとして建てますと、1年当りの建設コストは大幅に低減します。それはライ

フサイクルエネルギーの低減として、地球環境問題にも大いに貢献します。我々はフローではないストック住宅の建設に携わ

らなければなりません。

建築主から「貴方のおかげで良い家ができたよ。ありがとう！」という言葉聞いたときが、住宅の技術屋として、「最高の

瞬間」であると思っております。そしてその建物は何10年にもわたって、存在し続けます。我々の仕事は、建築主の夢の

一端を担うという素晴らしい仕事であります。

「日本住宅技術研究会」は、建築主に満足して頂き、その住宅を長く使っていただくために、プロの技術屋集団として、住宅

の総合病院を目指しています。

技術屋仲間として、定期的かつ継続的に技術研鑽・情報提供を行っていきます。

建築主に適切なアドバイスを行っていきます。

この趣旨に賛同頂き、日本住宅技術研究会に入会賜りますようお願い申し上げます。